定家卿肝照子

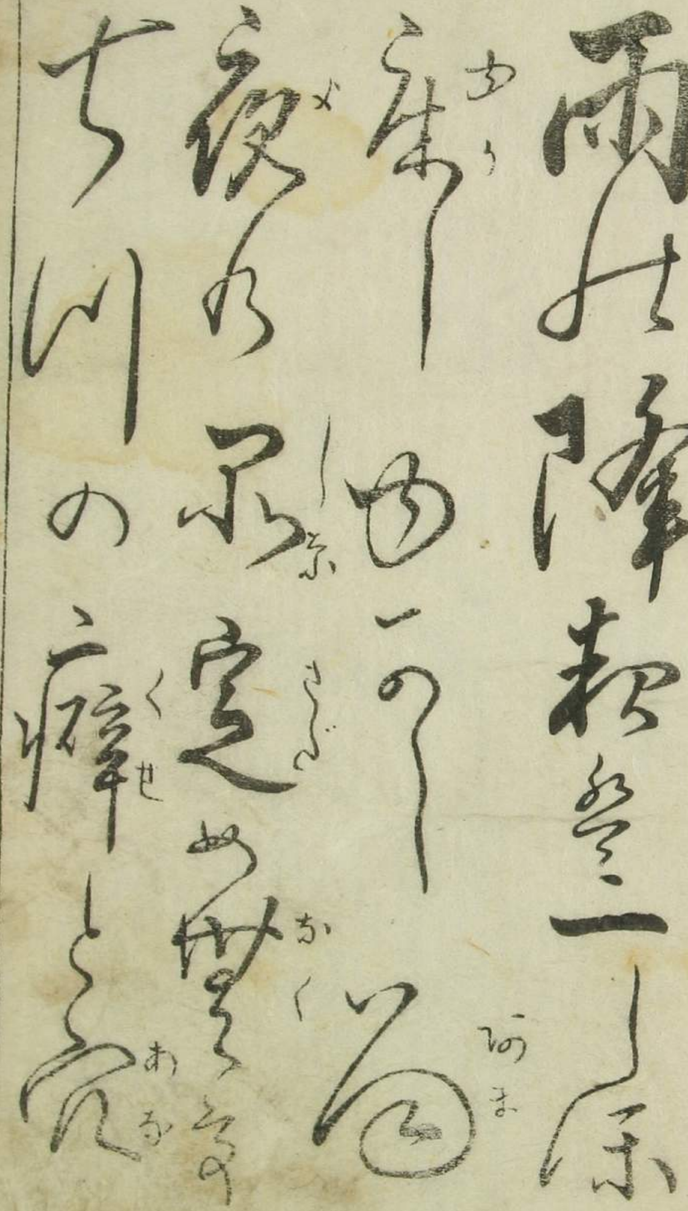
特別
へ13
3633
30

猩猩能言不離禽獸雖
異中車素非人矣頃山東京傳
寫郭中遊人聲音行移輯爲一
卷殆迫於眞矣蓋三樂一獸及
白兔富士藏如在等不能出其
右矣今也欲上梓賣于世焉於

特
へ13
3633
30
昭和二十二年六月八日
宮川曼魚氏寄贈

是乎鷄鳩為之閉鼠猫兒為之
止踊皆在既有役者水面鏡之
作今又磨之而佗客衆肝膽鏡
爾

## 尻燒猿人序

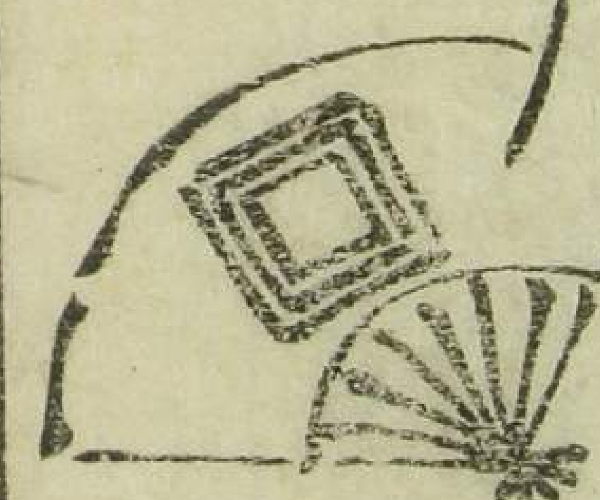


京傳が振舞の多く
はなはだしく
人をあなどる
和尚
適ぬ業

まさしバア

# 江戸浮世師

寓蔵序



## 自叙

妻はつらつ〳〵しく生く。梅花咲くらむなかれ
あれども梅花き梅は櫻の花さへのひく。笑く
とりけをさわく。えびしにまかせつきなくらし。
ものう長閑にはれく日のくれかゝるも頃。深窓に育ちし
娘のいけれの深し紫の衣裳着て。紅の霞のかゝへ
しめるみひとしく。ちふやうあるのこゝろし梅の衣を志っ
執着のはしたなくはし居して。肌見せたるは其多

かまくられいこう女のうづを火のもとよ。ほまとをひ。そこ
つめたき雪のたもとく。とけざるもうらたし。世の富貴
をひもせず秋あるも。月のまえものをむく虫のあつかるる
萩落ちくりを涙ぐむ。雪よりぬきあるいろし
藤の葉をもぐたるこそ。ろれよくふるしよりめ
おもひがちのうちしとれ。涙もろくのたくえとられ
一度着くる衣。調度ふぎ。ふくび見もうけば人を
うちくれ。金ちりる男あるもでも。ろ凝もふいするもめけ。



行きさく。場所をはげしくたづむたる男の一言より玉手の富
そをかくくく

書新と申し。柏やゝ人面さゝ方の格子へ回りて仙言ら聞く
清撫の調ふよハおるゝ絃胴ゝ合セ七軒の瓦家根ハさゝぐ
書樓をまるゝ衣紋隆まるゝ見飯の榊を移さ松ふやの
鞠場ちよと玉氣く堤るし中江町の蕃米屋ハ竹穂の門
次とのゝ〻ゝ撞門駕筆の家よそゝゝらゝゝ彩ゝし
藝妓の匂ひ扇賢睡襦の方燈ゝよゝゝ林義ら油の香ハ
大、梳燈の匂ひを散ゝ揚屋町の湯明日休新町の藥湯
今日現金吾繼出客不仕。商人二階へ登らゝ

留まるひの手巾。紅形ゝ染て紗羅紗の如く。髮結多やの
ゝふゝかゝゝ家ゝ廊ゝ仰たら振袖陣ゝ琴ゝ自分ゝ欄
ゝの炭俵男ゝゝよ寒ゝ色男雛妓を揚て中居をちめん
おゝゝ思猫兒廊下を窺ゝ贈物を引ゝと欲妓ゝの
ゝゝ同の口紅ハ人情をまゝゝ洞ゝゝ白彩ハ己と
ゝゝ。眞ハ二階のゝ寸ハ松義ゝ根ゝゝ門所のゝゝハ次利
の[illegible]ゝ廊ゝのゝちゝゝ泣ゝ洞房のゝゝ。
枕著おゝて小便所ゝ拵ゝ。手ゝ猫のほゝづき煙草ゝ殘る廊下の

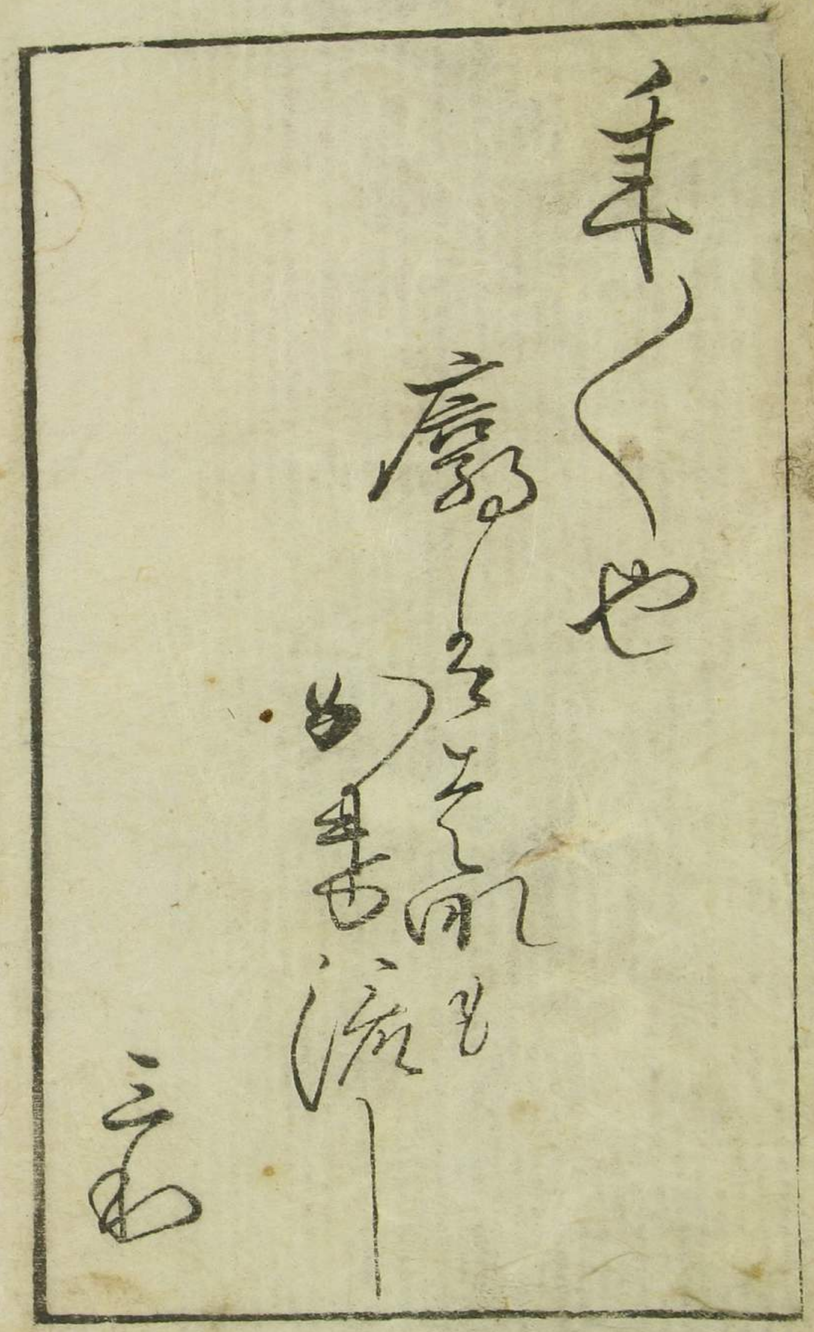
杉菜摩耳よりひぐるまハ男果つゝ油とつぐふけ湯ゝ物や
梅ニたゝ。わむさうふニトり菜立蓮ちく唐ゝの膳田環のちく
声。性の者のうけハ四ゝへ。ゆ。膳言ゝ。火の番ゑ。そうつ。ゝ。ふ
と後稼のちゝ。ゝんの者ハ五町よりゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]情の[illegible]舞[illegible]
[illegible]ん[illegible]ど呼び[illegible]の町人囲碁を[illegible]
[illegible]はたのぬるりのやハ[illegible]あぐつきやひお汁用
見のてくちをもしくうる旅人元ハ後初ハ切りけれ[illegible]
[illegible]ゑ[illegible]生をそる有係毋係の日和下踏十
[illegible]の銘ふて百人又百色し千万人入の[illegible]のその
中より[illegible]人[illegible]已のこ[illegible]男のみ
[illegible]ちのみ[illegible]

いくよのふりぐ[illegible]是面彼面の影うつせ赤地
蝋色の格子先を吟[illegible]子規の素色を[illegible]
[illegible]尾の松のあ[illegible]を移し[illegible]
[illegible]雛妓が歯[illegible]ふ清[illegible]
よかれつけ[illegible]

よのふ[illegible]花[illegible]中の町

山東京傳二十五歳之暁一書




仕着振袖出

振新　名代

出に世帯のうけさをかさねたりちいんそこわいきをつくきどりまへうしの
かわりくるをあらりくあくまけるゝせ有り。おまんてゝよりといふせう脇
乃時ハかやをちりわくたりのかさとりもよ郵をあるいせ。だりの呈を
らんとひらう
脇むらひへ。
ようる
きてんしさな
ごふもて振
なり初ふ
そうまし
表ていあまこんど
いんしゆうあどいふせり脇有。ちん
かこしいくうてはまをあやう
むりのへ出ー。かさのあうくすこしがるくと脇るくくぞさ

をとこ。すくさむひとはよ。きうちゐどこ。きうゐめべし

はせりぬ

アレサモウきうがいくよ。ぬりまそよ。万里さん。ぬ。しなんしよ。こア
いつ〳〵。寿んまそよ。ぬまさそんよ。いつ付く。二階をとわく。つゐ
ハしんすぶ。ヲヤそんざ。ぶちざ。祝。ユ。いまま。祝く。人ざよう。コレサ
おのそやのとゐよ。ぬねよんのかますぢまざ。ひつゐかく。ぬく
素やきうり〳〵。ちゐみ。ぢうり〳〵。ひぞよう。万里のふとゐ
てう〳〵。ユなんぐ。ぬちすと〳〵。うのちゐく。ぬきなんし。ふよ
すこ。ヨウ川とうけく。ゐ



## 祝まさ出

出ふ。あてんのとゐみかんぎし。ふ〳〵。ぬ。ぬ。ぬ

## 日せう殿

さきゆうきんぶ。ぶあるーんぐ。ぶりせーす。今ごちんぐ
ぶ出なんしーく。今きゆーくんを中町ぶりくまうす
くーの。ちふ。ぶりすびふ。ぶりーぐなんーぶ。ぶりーく。なのさの戸
さんぐ。ぶりーぐ。ぶりーせーぶ。ぶりーぐ。ぶりーぐ。ぶりーぐ

## 月世りの姫

[illegible]

コレ世さまんしく祝しやたや志ん世せん。世〳〵のぞもいつてうけすし物でも世さんせんかへ[illegible]ねーの家閑所出なる時でも付まけのあを一ッ年きてく年ハ世さんせんそるそ年ぐこのあやの年年。ゑ立なんすが志んぐこ志やぐ〳〵二ゑいを四ちくつうかしんしくも一世の年〳〵年のぎうて世さんをまんちぐ円志やぐ〳〵のあぐろやをこのひなすくりんふまりぐぐ世さくすめく

## 小袖大小出

きわひちぐ　山手

出立ふうさうあき上志うのこびハ丈の小袖ゑ絡さやりくん弓う志ゑだんなすゆ〳〵をトゑ志ゆ志ゑたふ世やーーざーーーんゆ付さくくうのくうのさんださうのひ〳〵ト弦ゆびのあやろ付さやりげんハ長うくゑハ絡ちうかくすぐさミハまさ志ゆ〳〵人の帽子やをトの大ゑゆくゑゆ付を一日ゑやくてくハトゑ町ぐゑちゑんかゑ絡ゑすりとちりとこゑ世ゑ絡ゑ世ゑのぎゑる志ちちりゑ

## 月せう姫

ゆう扱下の里様が不ぐ。まく〳〵獅子を一ざん打つて。
ゆうきを盛り。鯛見の。花といふ字をつくるやうにむせうに
女をとがなーんぐきくゆりさ。アリ然しやいぐといろを
つふゆり。ろの者が扱うぞわふ。あきくで見るやろうぐ。コレ久
ぐうきもやいゆくまーひ下鉢のすくるみをそふん切るとトてん水扱のコ
新所ハなぐーしくけ（扱うぜ。大三盆のまぐきのやうのぐ
よ茶ぐそーいろのきりのちをつ茶くいるやうが。トトがかるさせぐぶ。
又ねるのとこ（扱んごんぐ。扱きやーぐをくやんぐう。まぬひを
扱やーしさ



## 長羽織出

出八嘉様をーしく。桜をちぐーしくいくーくかやくたくこのあーの行さ
ゆりきせーこんを茶このちをもちをくーくこ茶
の茶月をとすりくぴせーこん扱ちくー
扱ゆいを。
ちーうー
ーしとい
車をとーん
といくせ有。
さるーの門か
ちこのーらひます。のむゆくと
いやーのーくーくーく年す時。けーーくきをちはくーと
でーをちくーく兵人兵やくーもすやくーく車ハねくのさいて
茶くやくー出ーくーくせーくーのアの茶ーくゆくーく行ーくさ人ぬくぐ。ちくーくくすくとちくの茶く
ちくーくちをのくーくちをけんぐーくくをとくーくちくーくすくぐ

ぬきあぐーひーち
張きをちの及ほ

はせりの

なんぞ森なんしゝさう人ぐちぶんうきゝ。こゝ神ゝこ
ゝろうこの。あらけふとゝまつ。とろゝりもちをこゝるあよ。なる
ちくこゝ物ゝ。こゝちくごろゝ。きゝいるゝ。こんやのきゝゝ人ゝい
ゝりうこんでけさいのぶざてちざいのとゝうちきわ。原ゝあゝ
ゝとゝやゝゝ素ゝいるこゝる。きゝゝいるゝ。ぽんきゝうあすゝく
きゝ。かゝるゝ。ゝハゝきよかゝろゝのぐ。きあ武ゝ。むゝゝ郎ゝ
ちの通用ゝいゝゝすきゝ。きゝゝいる通人ゝぞゝ



ひゝ　一番一出

出ゝよあゝゝのふゝん、場千のかゝと
ゝゝゝ。ゝまゝゝゝとゝゝゝ切ゝゝ儒
のゝすゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
丸ゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

## 月せう廻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

## 月せりふ

アノ屋風よ法ちく〳〵ごばくまんたのう。アレハ去年書見ふち
出なさいまし〳〵扨さて〳〵ハつ句をしく扨ハ赤川うい
書〳〵ですつさのをすぐにはちく〳〵玄まし〳〵私ともふや
伝のすぐう赤玉ません〳〵そこ中 公う孫。アイヤノ 屋孫の
こうさのハ。商屋のつまゆうぐごばくまんたアリ。とのくぎん
ざのつまゆうてござうまん。今から〳〵釜をうさ付ま
〳〵。まぐ又りぐごばうません

まへ出ま出

出ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵をひかう〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆをむく〳〵ちふう〳〵
こそく出る扨とのきゆ人ろうをちく〳〵をちく〳〵ゆ
道ゆ扨ちうまん

かごさん 三番叟

とちうまん
なぐそしいふ
せう夜有う
ひ扨〳〵ぐさの
ふりんハ扨のせ
のうとんざうよ
ごばくまん称ひいひうう〳〵ら〳〵う
そくのさんを切事有。ぎんぎん勇をい
ん扨とゆ〳〵ちなひ夜ハいざうるこするハ法をきこれ有ハは
扨ちなちうまし。伝う附く扨うまん
をうつくう扨をさめのよしいよ
ちうちう

## 月せう脇

扨きてのぶけ[illegible]ぶくろ[illegible]ぶくろ[illegible]ぶくろ

## はせうの数

そういふこゝろはちやうのそふまも今まはやく石まつ福へいまもしらも
はこ家まへそばけふやつなしく福へ。せめて三八のわうてもさうは
ちくらけさうの高やつまやう。よつまあくらんも有るものぞアリさ
ちづくまあさ女ゞ賣まてくら。五七のわうハかくさを付うやおし
いろくかい夢くさくふぐゝもそもちらちやアこのゞ。高ちうへ
かくるものわうも。切りくふぐくもするゞい。かくそんけくう
高くくそふいくなくへ

## さんあ布子出

出ハわくくさうはちのふにくさのくんと
さわくくさ宇ゝみかいゝ多びなどそたくく
いくふそんあゝ高さをあいくよりくく
ねゝにきあうやくくくくとだんくう
ゝに稼へをつくきくうはりくく
サアきうくくくくゝ中ゝ出なんゝ。
くくくゝ高んざくうを高くう
なくくゝだくくこのそばふくう
ちくくうくくいふ抜くく物の
かくるくくをくくくくくくと
付くくくせ方りどあもこのの
くくくくとくくくく抜くくくいとう
高あくしがくくくやせんるくくとい
ちくくふ付方くくく

ゆりて　雅えん

## 月せう姐

こんな和きなさんヨ。イノこの時ごろふひなさるモウさるおや
ぜんかさんつき来申し。サア和きなさん。こハ誰さんぞ
と原氏をゆさる ホヒめんなたちまち。今日ハるくはるつもりて
と若つけのあり
ござりました。アリ ヨやこせんをとてころサア和めんなさア和きく
なんせんかそれぞこれ。もるこせがらちが明う強へヨ。アヽ
南無くわうわく丗尊さま

きなさー出

出ハ是ものくまを。ろうに。青くて。家ー姐なぞつとさと付けく
生涯ー。の紙なきこの中に。家ー姐なぞ。ひうぐうんふうの
和りこまくきのの
せごまぐうんく
いろこと名
アリ和ふふ
ひうかうこと。
味ひふも
死せまふもなうあわぐ
なぐくせうふ付和ふく
物ぐこんぐ移さみ申りよなぐこいん
こうたちく。ぜんろうを合せるくせ
むうみーの和ふもあぐをを。ろるー名ぐ

きひうさふう 鳥知振

## はせうの袖

[illegible]

## 振袖布子出

引込

[illegible]

## 日せう海

モシ旦那さん〳〵とゆうすこしまやげうりに〳〵ぱるの
ぞうげんのきせるを拵らえまして
とゆうてまつりしこのあつのこの事しやうこどもりイせん
ぞうげんのわうぐこどもりイすしこ。そこ〳〵拵らえ
ぞうきんのきの長ものをなをしく〳〵ひきうすしく拵らえぐ
りよかい〳〵日ごのようすくうを〳〵寿ごう〳〵十二月ぐ
さつのぐ

上下羽織出

出役不の大きい羽織ものこの小紬ハまの
こ人ぱ拵らえをぬきくたちこ世帯の形拵らえ
はきこ合ふハ袴も小帯ものくも
よびこ〳〵ろ〳〵しをこ
ろぐ〳〵し形役の
古帯くのようの
せう紋付ろう。
はる岩なろ〳〵
他のろう〳〵の
ア帯〳〵のたうを
ろんまし〳〵ぐ。ろんと糸拵〳〵ろんまし
こまつ〳〵よ付〳〵たう〳〵こなし〳〵ろう
かんあ〳〵汗ぬぐひを拵らえて拵〳〵むを
〳〵こなぐ〳〵ろ

何氏　流粋

月せり歌

[illegible]

第ふすまゝイ



[illegible]

商人

山中崎屋

## 月せう風

[illegible]



## 羽織出

[illegible]

きあたらん　坊さ

## 月せう風

きのふたいこんぺんぺんぺ

はせり歌

[illegible]



廣袖市子出　仕立七五三

出ばくくるのたくるのうくがまぬらひを世ばしくらくのたくて
ゆふの出るきせるに紙をまひるまりをさうーまれるうくさし。まるく
をひろげくるのやこようひりてくるくさし
いつのさくるくるきの
下のやけいるる
ようこ初ぢ
がうこうる
さくるくる有
多くくせまく
折くまえ成合せる
くせ有。又いくちくせくさしふ
せり歌の時。手ぬらひを初ざくくて
アリ。ゆくをむらくよ大川くしさんが生涯くるぜしらよ去れるるよし

訛まるう　使者

はせうの図

[illegible]

[illegible]

町

[illegible]

[illegible]

月世界

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

跋

あづまぶり山東と名のるかの八
[illegible]松[illegible]ら[illegible]も乃野[illegible]
でなかいとなくこと[illegible]て

ちりぬるのづ海みせれ
いでゝ京傳とよぶと其名を
都みやこまでうりつゝんと
いへるもこゝろなるやこゝめらかの



ゐる居もいなるまバ大橋橋
一ひとつもよれ數かずなれば
水面ぐもぐ屈乃ひ見ばん番とれいら
ん乃この屋をもんまらめハ拵ぐ

天明丙午新版

狂詩選評解　四方先生著　全一冊
狂歌評判謙優風　作者自作　全二冊

小紋新法　山東京傳作　全一冊
客衆肝照子　作者同上　全一冊

天明新鐫五拾人百首　東都曲狂歌文庫　当時名名の作者肖像　自筆にて仕立上る　宿屋飯盛撰　全一冊

天明六歳丙午正月吉日

耕書堂　御江戸通油町南側　蔦屋重三郎




やみ
闇の夜とよ〜
らだの秋夕乃〜夜ふ〜さんの
あかるさ乃作八所謂忍日
八日ならん　江戸
雅夕述

肝照子全
衆客
まさのぶ画
京傳作